

## 燕市医師会の「東日本大震災医療支援」に関して

燕市医師会長

古川伸夫

燕市に17日（木）午後7時ごろ南相馬市から約200人の被災された方が来られ、3か所の避難所に入所された（市体育館、防災センター、てまりの湯）。

その夜、状況把握と被災された人たちに安心感を与えるために8名の医師で各々避難所を巡回した。その際に被災された人たちは

- ①津波で家屋が流され、家屋そのものがなくなった人
- ②地震で家屋が倒壊した人（住めるかどうか別にして）
- ③放射能漏れで屋内待機を指示され避難された人
- ④食物の供給不足と治安の悪化で自主避難された人に分けられることがわかった。

又、被災された多くの人たちが現金の保有がなかった。

ここに到着されるまでの1週間、食料不足や寒さによると思われる風邪症状、度重なる余震による不安症や不眠症、トイレの未整備などで便秘を訴えられる人が多く、治療中と思われる患者もいた。そこで当日は先ず、便秘、風邪症状、不眠等の訴えの患者に対応することにした。

18日（金）昼、各々避難所に数名の医師を派遣し保健師とともに病態の把握に努め、夜、6名

の医師と市職員で今後の対応を県立吉田病院で話し合った。

19日（土）、20日（日）、21日（月・祝）は6～7名の医師で1名の医師と1名の保健師がペアになり各避難所を横一斉に並んで聞き取りを行った。その結果、一刻も早い治療が必要な患者が多いことが判明した。しかし連休であり各々医療機関での処方困難であるため、この三日間に限り知人の薬剤師に各々避難所に来てもらい、診察した医師の処方した薬剤は当医院名で処方することにした。

22日（火）からは主治医が決まるまで、毎日昼、夜と巡回し、28日（月）以降は概ね状況把握できたと判断し1回／週3～4名の医師派遣とした。主治医は交通費のできるだけかからないよう、原則的に避難所の近くの医療機関を紹介した。

なお夜間、休、祭日に発病した患者は県立吉田病院が引き受けることを了承してくれた。

（避難所における課題として）

1. 感染症対策 2. エコノミークラス症候群の予防 3. 心のケア に留意して対応した。

今回の大震災で亡くなられた人たちのご冥福をお祈りするとともに、東日本の一日も早い復旧、復興を願っています。